

青年部

12月全体会議

- ・日 時：12月18日（金）午後5時
- ・場 所：THE KAWABUN NAGOYA
（名古屋市中区）
- ・参加者：30名（会場23名、オンライン7名）
- ・開催方法：会場& Zoom online

新型コロナウイルスの猛威により、これまでの「当たり前」がままならず、業務及び日常生活においてまで数々の制約が余儀なくされ、先行きの不安感を誰もが抱える中、IT技術を日常に活かした新たな「当たり前」が急速に社会全体に浸透しつつあることを実感します。

しかし、私たち産廃業界においてはまだまだ周知されていないというのが実情です。

今回、教育情報委員会（柘植章仁委員長）は、業務の中でいかに最先端のデジタル技術を活用すればよいのか、をテーマに「ニューノーマルを実現するDX最前線」と題して、富士通株式会社シニアエバンジェリスト 及川洋光氏を講師としてお招きし講演会を開催致しました。

『コロナ禍で生まれる新しいビジネスモデル』では、新型コロナウイルスにより私たちの生活や仕事などのような影響を受けたのか、変化しつつある企業の新たなビジネスモデルに着目した見解が述べられました。

『DX（Digital Transformation）で実現する少し先のニューノーマル・最新技術の紹介を通じて今後どう変わっていくのか？』では、デジタルツインについて、実在する物の情報をサイバー空間にて再現する技術であることから、今後製造業や生産現場に

での期待が大きいとのことです。

また、AR（Augmented Reality）の拡張現実とは、現実の情報にデジタルの情報を重ね、瞬時にデバイス画面に表示できることから、ナビゲーションシステムやゲームソフト等で活用されています。

他にも、デジタルアシスタントにおけるAI（Artificial Intelligence）の活用例では、私たちの生活全般のサービスまでに及んでいることが挙げられ、新しい「当たり前」はいつの間にか日常に欠かせない生活の一部であることを知り、私たちの業務におけるDX化を推進することが急務であることに、改めて私たちの意識改革の必要性を感じました。

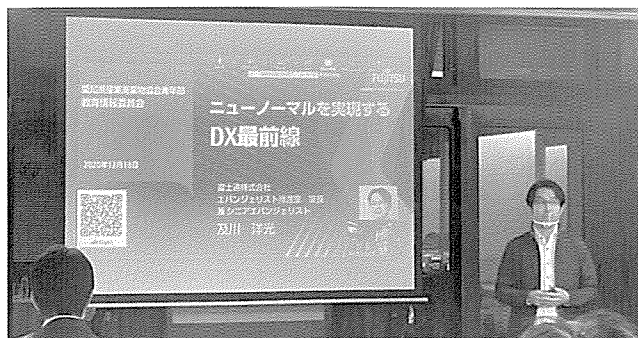
平成30年経済産業省が「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン」を提唱していることもあり、DX推進の経営のあり方や仕組み、DXを実現する上で基盤となるITシステムの構築、その体制づくりなど、スピーディーに進めていくことが求められているため、青年部が果たす役割として業界にサジェストしていくことに気づけた有意義な講演会でした。講師の及川洋光氏に心より感謝申し上げます。

初めてのオンライン併用の事業でしたが、富士通（株）様のサポートもあり無事開催することができました。関係者皆様のご協力に感謝申し上げます。

会場は新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、入場時の検温、手指消毒、ソーシャルディスタンスを配慮したテーブル配置（6卓を離して配置、着席数1卓3～4名）としました。

今回の事例を基にコロナ禍における事業の開催方法について今後に活かしたいと考えております。

（柘植委員長談）



講演をする富士通（株）シニアエバンジェリストの及川講師



講演を聴講する参加者